



▶ 冬のホタル幼虫調査①

12月13日(火)、新月 ● のこの日、微かな明かりで発光する幼虫を見つけやすい条件下、冬の調査を実施しました。前月と同様、久木池上流①ではヘイケボタルとスジグロボタルの幼虫を確認できましたが、確認した個体数は減少しています。今回、同定ができた幼虫はヘイケボタル3個体、スジグロボタル1個体でした。注目されるのは、スジグロボタルが流水域の砂州を安定した生息地としていることが再確認された点です(図-1)。一方で秋の調査でスジグロボタルの幼虫多数を確認した湿地部では枯葉が堆積しているため、幼虫の確認が難しい状況でした。

12月に入ると気温・水温の低下がさらに進んでいますが、それに伴って活動する幼虫が少なくなっていることが改めて分かりました(図-2)。

このほか、久木池上流②及び東の谷戸①で幼虫を確認しています。

8月以降の幼虫調査で、久木池上流①地点でヘイケボタルの幼虫が多数(種不明も含めて)確認されました。少し早いのですが、この結果を踏まえて来夏は6月下旬に久木池上流①でヘイケボタルを対象にしたホタル観察会開催への期待が膨らみます。

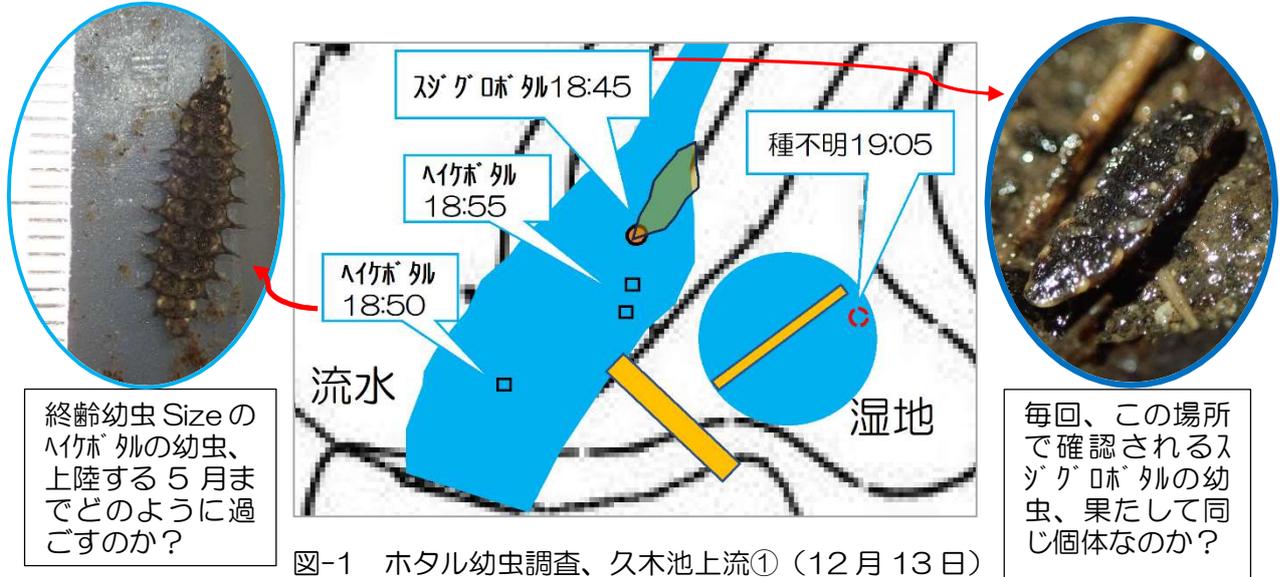


図-1 ホタル幼虫調査、久木池上流①(12月13日)

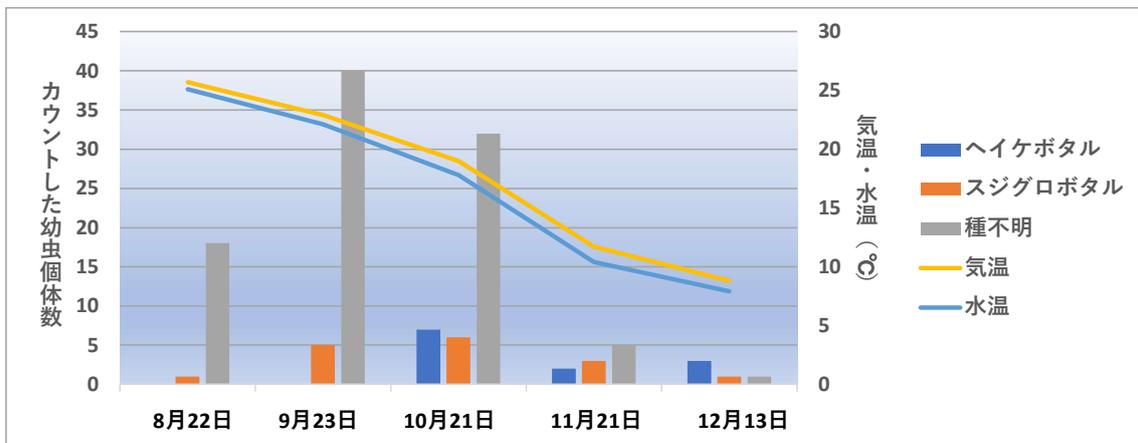


図-2 ホタル幼虫個体数と気温・水温の変化、久木池上流①